

会 議 録

会議名	第12回まちづくり委員会		
開催日時	平成23年7月28日(木) 午後7時00分～9時00分		
場 所	消防庁舎3階 小会議室		
出席者 (敬称略)	(委員) 赤羽昭比古、牛丸喜美子、本多啓次、水野隆幸、倉澤有里子、関彰子、関根渉、千田富子、中村文昭、林善教、原美子、高木清房(町)一ノ瀬補佐、木村、殿内	出席人数	
		委員	12人
欠席者 (敬称略)	(委員) 有賀寛子、熊谷久司	町	3人
		計	15人
会議次第	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 協議事項 (1) ワークショップ「地域づくり活動ハウスマニュアルを作ろう(パート2)」 (2) その他 4. その他 5. 閉 会		
資 料	(配布資料) 次第、地域づくりの悩みまとめ		
会議結果	ワークショップにて地域づくりの課題の解決方法等を話し合いました。		
発言者	発言の内容		
副委員長	開会：連日厳しい暑さが続いていましたが、台風が過ぎてから涼しくなりました。また、暑さも戻ってくるようです。地域づくり活動について協議いただきたいと思います。		
委員長	先月は地域活動についての悩みを出し合ってくださいました。地域活動を考えるときに衣食足りて礼節を知るという言葉の思い浮かべます。今の社会の在りようを考えなければこの時代にあった協働の形は生まれてこないと思います。本日も町の協働について考えていきましょう。		
事務局	前回の出していたいただいた、地域活動の紹介と悩みをまとめました。活動事例と悩みを突合しました。前回出た活動事例に対して、悩みとして若者参加が少ない、後継者不足、参加者不足、参加者の固定化等が出ました。それではまず、前回のまとめに対して補足があればお出しいただきたいと思います。		
A委員	悩みが参加者の不足に集中していると思いますが、その他の項目として参加者の不足を解決する為に広報活動があると思います。もう少し行政とも協力しながら広報を進めて行ければと思います。		
事務局	本日の会議の目標を話していなかったのですが、本日の目標は、今水野さんがおっしゃったように、悩みイコール課題でその課題をどのように解決するかを集中的に議論していただきたいと思います。それを課題ごとに議論していききたいと思います。その際に情報伝達手段が無いなど話を出していただきたいと思います。		
B委員	ここにある課題以外に広報不足や財政的な問題が出てくると思います。悩みとすると広報不足、財政不足があると思います。また、課題の若者参加と後継者不足、参加者不足と参加者の固定化の2グループにまとめた方が進めやすいと思います。		
事務局	細分化し過ぎても難しいので、まとめたいと思います。 それでは、本日目標は課題を整理して、課題の解決方法がどうあるべきか、課題ごとに議論していききたいと思います。また、前回、委員会として活動に触れて、それを持ち帰り議論を深めたいといったご意見もいただきました。活動団体の事例を挙げていただいて、活動団体の活動の悩みや解決方法を聞きだしてくることも大切だと思います。その2点の議論をいただきたいと思います。		
C委員	地域活動の悩みですが、一般的には、人・物・金があります。運営方法が無いので、運営方法のカテゴリーがあると思います。		
事務局	スムーズに運営させて長続きすることが大切ですので、運営方法も入れてみます。		

D委員	運営方法の中に先ほどの広報も入ってくると思います。
事務局	それでは、4つのグループに分けて議論していきたいと思います。
事務局	若者参加・後継者不足から議論していただきます。解決方法は活動ごとにどうあるべきかは違うかもしれませんが、それは気にせずご意見いただきたいと思います。
ワークショップ ①	<p>ワークショップ① ～若者参加・後継者不足をいかに解消しているか？～</p> <p>「ライフスタイル」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段仕事をしているので、土や日曜日の朝、ソフトボールなどがあるときに合わせて一緒にやってもらう。そういう時間しか取れない。 ・中心になっている方のスケジュールに合わせて行い、中心の方が若者であればそれについてくる。 ・今までやってきた方達はレベルも凡そ一緒に、コミュニケーションも取れている。入っていただくためにも、最初は見学程度で来ていただき、入っていただく手法がある。 <p>「ニーズの把握」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者と接点を持ち、何を望んでいるかを把握する必要がある。 ・価値観が違う。共鳴するかしないのか大きな問題があり、そこに後継者として入っていただくことは難しいと思う。平出の泥地フラグスは年配者が入っていないので上手くしているいい例だと思う。 <p>「子どもの地域参加」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが地域の行事になるべく参加し、地域に馴染ませる必要がある。 ・お膳立てをしすぎないようにして、子どもが自分で考えてできる形が大切だと思う。 <p>「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者の団体、年配の団体もあり、お互い活動を知らない部分がある。お互いどのような活動をしているか情報交換することもおもしろいと思う。 ・若者が主体となって地域の皆さんが参加できる行事を行うことが必要。 ・若者の参加が少ないというが、逆に若い方には若い方の行事があり忙しいと思う。そこを過ぎた世代が、活動に参加していただくことが大切。 ・同じ消防団の中でも、若手の気持ちというかニーズが違うこともある。 ・かかわり方を知らないので、仲間づくりのきっかけをつくる必要がある。 ・後継者不足の問題について、今後未来も長続きさせなければいけないのか。利害関係が無い組織が、未来永劫に続くとは思えないので、もう少しフランクに止めてもいいという発想にしないと、重圧に感じると思います。逆に同じ組織を残す考え方だけでなく、組織が出ては消えていくようなことがあってもよい。 ・活動の理念が継続していけばよいのであり、活動団体が変わってもよいと思う。
E委員	地域活動の範囲はどこまでをいうのか。地域のための活動となると、消防団や奉仕団のような組織化されたものもあるのですが、この会はそのままで考えるべきなのか教えていただきたいと思います。
事務局	地域活動のくくりはある物を見ると、地域に暮らす人々が自らの発意・行動により地域の資源を生かしながら地域社会の課題を解決し、よりよい暮らしを実現していく取り組みそのものとなっています。区、消防団、青年会等々広くくくりでよいと思います。

<p>ワークショップ ②</p>	<p>ワークショップ② ～参加者不足・参加者の固定化をいかに解決しているか？～</p> <p>「運営方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミに常に出すことが大切である。一般の方が知らないことが多いので常に情報を出していく必要がある。 ・回覧板を出しても、町で広報を出しても全員が見ていない。色々な方法を使って周知する必要がある。(重複しても良い) ・人が来ないのは、マーケティング不足だと思う。自己満足が多く mismatchの部分があると感じる。ニーズとシーズの違いがあり、どちらを優先するかも考える必要がある。 ・主催者が常に参加者の参加しやすい時間を掴み、設定する必要がある。 ・企業には地域に貢献する活動があると思います。地域の団体と協力をすることが必要。 <p>「趣味・楽しみ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の中に楽しみを持つことが必要である。そうでなければ、会員ですら出なくなる。 ・もっと気楽に集まれるような環境をつくる必要がある。 <p>「固定化もOK!？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に継続していくためには皆で話しあって開催していく必要がある。 ・ただ多いだけで自分達が満足しているところも無きにしもあらずだと思います。ただ継続してきた事には意味はあると思います。 ・逆に参加者が絞れても良いと思う。 ・出て来れる方が決まっている。活動によってはそれでよいと思う。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい頃から参加する事で意識づけをする必要がある。 ・青年会を組織しても集まらない。親の考え方が掴めないところもあります。
<p>事務局</p>	<p>時間もありませんが、運営方法・広報不足についても議論したいと思います。</p>
<p>ワークショップ ③</p>	<p>ワークショップ③ ～運営方法・広報不足をいかに解決するか？～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミを上手に使う必要がある。財政不足も絡んできますが、広告を掲載するお金がかかるので、記事に取り上げてもらえばいい。 ・吹奏楽部に今の2年生が4人しか入らなかった。その状態だと運営的にも厳しいため、運動会の合間にマーチングをしてみました。その効果か今年は22人入りました。上手に広報活動することにより、効果が出る。 ・泥地フラッグスもそうですが、新しいメディアやスマートフォンを使って広報することも効果がある。 ・ツイッターをとっても、そこから無限に広がる可能性がある。フェイスブックは多少難しいところもありますがやはり広がりがある。 ・商工会のHPで商業関係の注文をとれるようにした。工業関係の注文もとれるように取り組んでいく。 <ul style="list-style-type: none"> ・マンネリ化させるのではなく、自分の役員任期の際には一生懸命に取り組む気持ちを持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーについてですが、皆が話し合っ合意するタイプと強力なリーダーによって引っ張っていく2通りがあると思う。 ・年代にあった広報を行う必要がある。メディアを選ぶ必要がる。

事務局	組織の活動を活性化させて、どのようにメンバーのやる気を引き出すかが、活動の存続にもかかる部分であり、我々も少し掘り下げていく必要があると思います。この辺の議論は組織としても敬遠してしまう議論だと思います。その辺にやんわり踏み込んで行ければと思います。また、役員の硬直化や組織運営の進め方やリーダーシップ制なのか合議制なのか議論が少し足りなかったと思います。財政不足は別としても本日のテーマである3つは議論ができました。その他で何かありますか。
E委員	色々な行事に中学生を参加させて欲しいと学校から要請がありました。
事務局	今後これらを整理するのに何かご意見はありますか。
C委員	カテゴリーを絞る必要があると思います。例えば消防団まで入れるのか、幅が広いのでそういった検討が必要だと思います。
A委員	協働のまちづくり＝ボランティアでないと思いますし、もう少し幅が広く、そもそも協働のまちづくりがどういったものか、そこまで考えられればとても意義があると思います。
委員長	個別の話をしていくととてもボリュームがあると思います。
事務局	どの組織でも共通する悩みが出てくると思います。消防団や奉仕団などの特定ジャンルにも普遍性を持たせて入れていきたいと思います。
F委員	ボランティアセンターの福寿草で継続している団体で座談会をしました。継続してきたことは何か土台があったと思います。また、楽しいから続けてきたといった話もありました。いくつかの事例もあれば面白いと思います。
	次回委員会 8月31日（水）午後7時00分～
副委員長	閉会